

自動車技術の革新とレース活動

本田 宗一郎



本田宗一郎氏の人となりや、その業績について今さら語るまでもないであろう。明治39年11月、天竜市の鍛冶屋の長男に生まれた機械好きな少年が、自転車に取り付ける補助エンジンから始めて、モーターサイクル製造へと進出、やがて世界的なメーカーにまで育て上げていった。1945年（昭和20年）折からの第二次世界大戦に敗北した日本は、京都を除く多くの都市が爆撃によって灰燼に帰し、廃虚のなかから復興に取り組まなければならなかった。軍用通信機用のエンジンを流用した原動機付き自転車は、その混乱期に多く愛用され重宝された。しかしその混乱の時期に、敗戦によって仕事をなくした多くの企業は、こうした原動機付き自転車の分野にも多く進出したが、その総てが成功した訳ではなかった。本田宗一郎氏の絶えない好奇心と貪欲な技術への追求心が、企業を発展させる基盤となったことに間違いはない。

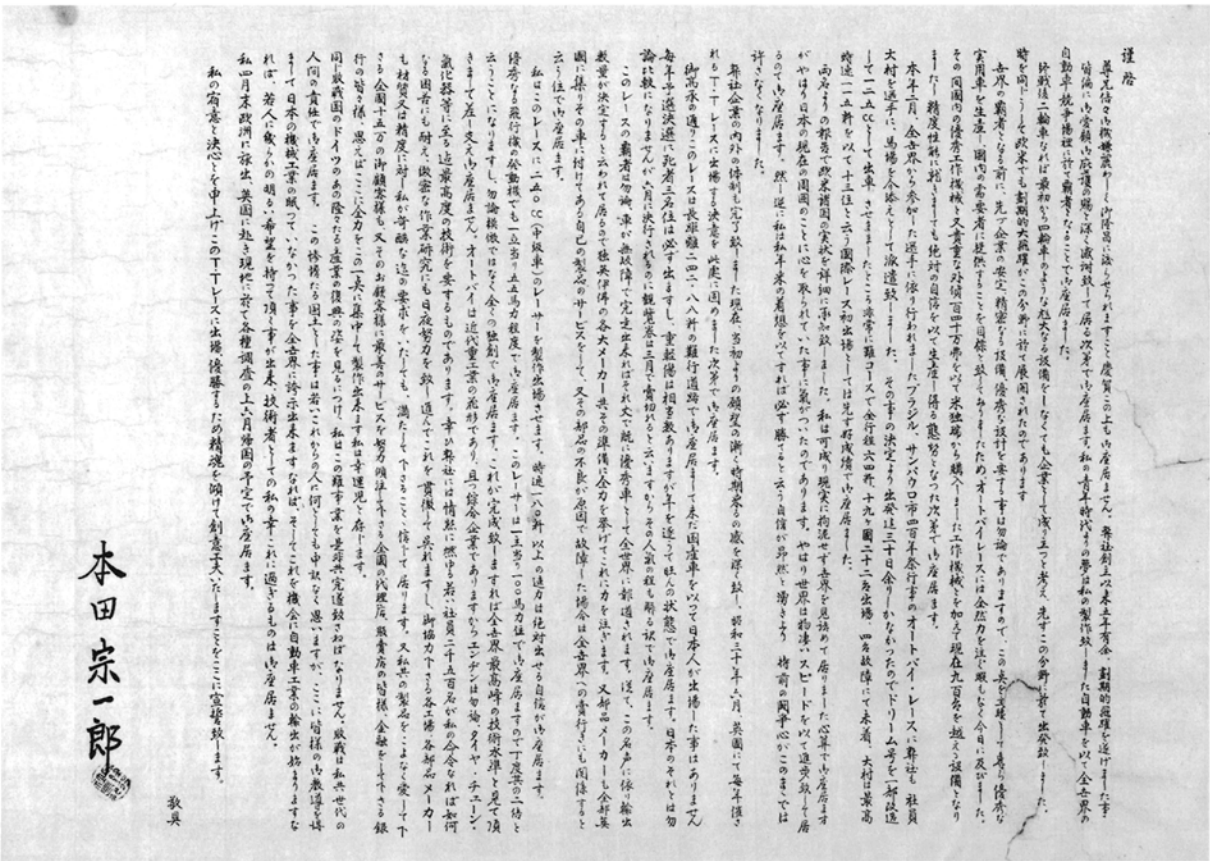
当時モーターサイクルの分野は、日本と海外企業の製品の間には圧倒的な技術力の差があった。特に欧州には多くの優れたモーターサイクルが存在していた。これらに追い付き追いこし、やがては世界中で愛用される製品でありたい、そうした目標を実現するための手段として、本田宗一郎氏が選んだ方策がモーターサイクル・レースへの出場であった。日本にも早くから浅間火山レースなどの催しがあったが、ホンダは国際レースの場でなければ意味がないと考えていた。技術を進歩させて行くには先進しているモーターサイクルの技術レベルに先ずは並び、やがては強力なライバル群を凌駕してゆく。これらは決して生易しいことではない。しかしホンダは敢えて困難に挑戦していった。昭和29年（1954）3月ブラジル・サンパウロで開催された国際オートレースでは、ドリーム R125 型で13位。これを手始めとして毎年6月に開催されていた、世界の強剛が出場するマン島のTTレースに昭和34年念願の初出場、この年ホンダ RC141 で6、7、8位でチーム賞を獲得した。マン島はイギリス本土とアイルランドの中間に浮かぶ小島で、ここで開催されていたTT（トゥーリスト・トロフィー）レースは、当時の2輪メーカーの威信をかけて争う場であった。翌昭和35年（1960）には250cc、125ccとも5位までを独占、TTレースに出場して3年目での快挙であった。

その後4輪車の生産に踏み切った本田技研工業はF-1レースにも出場を表明、マシンは横置きタイ

プの12気筒エンジン、エンジンと一体型の並列軸式のトランスミッション配置という、まるでモーターサイクルのようなレイアウトであった。このRA271で1964年8月2日、ドイツ・グランプリに初参戦、翌年の1965年のF-1シーズン、2戦目のモナコGPから参戦し最終戦のメキシコGPで遂に優勝、ドライバーはリッチー・ギンサーであった。1967年には、ジョン・サーティースが駆るホンダ RA300がイタリアGP でF-1において2勝目を挙げた。その他F-2レースにも参戦し1966年にはブラバム／ホンダ快走の11連勝の快挙も成し遂げている。

まだ技術も未熟な段階から積極的に世界レースに挑戦、あくまで技術の成果をあげるためのコンペティションではあったが、並みの経営者では当時思いもよらぬ発想であったに違い無い。またその副次的な効果として、日本の若者にレースの楽しさを教え、世界にその目を向けさせ多くの人々に希望を持たせた。自分の夢に生きた天衣無縫の巨人、それが本田宗一郎その人とレース活動の意味するところであった。

（猪本 義弘）



マン島TTレース出場宣言文 1954年

本田 宗一郎(ほんだ そういちろう) 略歴

明治39年（1906）11月17日	静岡県磐田郡光明村に生れる
大正11年（1922）4月	アート商会（東京・自動車修理工場）入社、6年間勤務
昭和3年（1928）3月	同社、退社
昭和3年（1928）4月	独立して、浜松アート商会を設立
昭和12年（1937）4月	浜松アート商会を東海精機重工業（株）に社名変更、取締役社長就任。（ピストンリング製造を開始）
昭和19年（1944）9月	同社取締役社長を退任
昭和21年（1946）10月	本田技術研究所を設立、所長として内燃機関及び各種機械の製造並びに工作法の研究に従事
昭和23年（1948）9月	本田技術研究所を継承し本田技研工業（株）を設立、同社取締役社長に就任
昭和48年（1973）10月	同社取締役社長を退き、取締役最高顧問に就任
昭和58年（1983）10月	本田技研工業（株）取締役を退任、終身最高顧問となる
平成3年（1991）8月5日	没 享年84歳



飛行眼鏡を作りスミス号の飛行士をきどる宗一郎
1914年(大正3年)



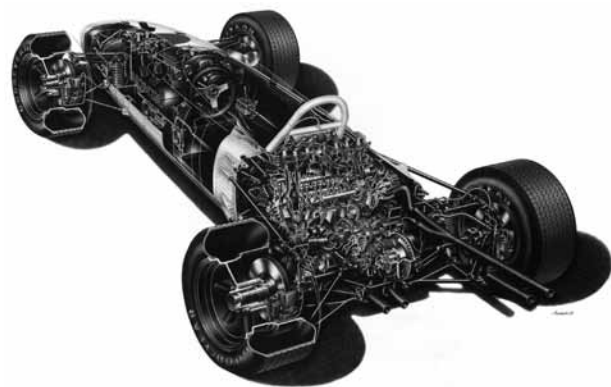
本田宗一郎、22歳で独立し、浜松アート商会創立
1928年(昭和3年)



湯島の自動車修理工場「アート商会」のデッチ小僧時代 (大正末年)



1961年スウェーデンGPにて高橋国光選手(左手前)、田中健二郎選手(左後方)と本田宗一郎社長



横置きV型12気筒エンジンを搭載したホンダF-1(RA 272) 1965年(昭和40年)



ホンダ最初のF-1の試作車と本田宗一郎



ユニークな空冷エンジンを搭載したホンダ1300と共に
1969年(昭和44年)



FIA授賞式にて同年のワールドチャンピオン、アイルトン・セナ選手と 1990年(平成2年)12月



Automotive Hall of Fameのセレモニー(アメリカ)にて 1989年(平成元年)10月10日